

# I 農業体験学習

1 学校の概要	1	2	3	4	5	
学校名	神谷	別院	大野原	高野	立川第九	
所在府県名	北区	京都	香川	広島	東京	
所在地域	都市型	山村	農山村	山村	都市型	
生徒数（人）	156	81	380	62	241	
クラス数	5	4	12	3	7	
対象学年	全学年	全学年	全学年	2年生	全学年	
特 色	農業体験を、人権感覚をはぐくむ重要な体験であると位置づける	生徒、教師、支援農家のまとまりがよく、農産物の生産から販売まで。餅米、タマネギ、夏野菜、山菜の採取・販売	勤労により作物を生産すると共に心にたくましさや思いやりを育む	農業体験を農家で3日間その農家の農産物を購入して販売する	2年生が夏野菜を中心に栽培し、地域住民、母校等に配布	
2 教育課程の位置付						
年間実施回数	4月～11月	毎週1回	4月～11月	年1回	4月～11月	
学 年	1、2、3年	1、2、3年	1、2、3年	1、2、3年	1、2、3年	
年間所用時間	70、70、70	100、85、130	85、85、75	70、85、95	70、84、74	
活動の位置付	総合	特別	総合	総合	総合	
3 ほ場の状況						
学内面積	—	—	—	—	—	
借地面積	792㎡	990㎡	1,485㎡	—	1,127㎡	
作 目	稲 (5a) いも類 野菜 畑 (3a)	稲 いも類 野菜	野菜 稲 菊	野菜 酪農 果樹	野菜 いも類 花卉 13種の作物	
4 技術指導者	受入農家 萩原、今井	農家 市町村 校長、教頭外	農協 地域	町内農家	JA 農家	
5 農業体験学習導入の目的	生徒指導の観点から、心を育てる	食べ物、生きものの大切さ、農業への理解、地域への理解を深める	勤労により作物を生産すると共に心にたくましさや思いやりを育む	キャリア教育の一貫として農家に3日間農業体験	課題を設定する力をつけ、解決する手段や方法を自ら学ぶ	

## 取材中学校の概要

	6	7	8	9	10	11	12
	元総社	付属駒場	付属高松	荒川	上藤沢	海老名	吉原第三
	群馬	世田谷区	香川	埼玉	埼玉	神奈川	静岡
	農山村	都市型	都市型	農山村	農山村	都市型	都市型
	364	369	361	191	353	452	289
	12	9	9	6	11	15	9
	全学年	1年生	1年生	2年生	全学年	2年、3年	2年中心
	支援農家と共に全校生徒で、落ち葉で焼き芋の収穫祭	進学校であるが、水田学習は60年間継続し、後輩に引継ぐ	進学校であるが、昭52年以降継続。総合教科(人間科)で取り組む	農業体験は今年で4年目を迎えたが、野生動物の被害対策に追われた	地域名産のお茶を生産する。煎茶にして関係者に毎年配布している	農業高校と連携して14のテーマの講座を実施(2年生)。青森県南部町へ農業体験修学旅行(3年生)	長野県豊丘村での勤労体験学習。20年間継続。2年中心にリンゴの摘果と収穫のため農家民泊
	4月～11月	4月～11月	4月～11月	4月～11月	年1回	年1回	年1回
	1、2、3年	1年	1年	2年	1、2、3年	2年	2年中心に
	70、70、70	46	16	70	1日	2泊3日	2泊3日
	総合	総合	人間科	総合	総合	総合	総合
	—	1,683㎡	—	—	—	—	—
	600㎡	—	400㎡	990㎡	1,980㎡	—	—
	ねぎ かんしょ 馬鈴薯 タマネギ	稲作 かんしょ	野菜 いも類	いも類 大豆 そば	茶	野菜 花卉 酪農 養豚	リンゴ
	農家	学内教諭	学内教諭	農家 市町村	農家	農業高校 リンゴ農家 (南部町)	リンゴ農家 (豊丘村)
	農業体験モデル校として、食農学習の充実を図る	水田学習の総合学習化	人間としての生き方を学ぶため	農業体験のきっかけは県の補助事業	地場産業のお茶とのふれあいのため茶摘み体験	農業高校の教員、生徒を講師に農業体験を実施	勤労の尊さ、人と人とのかわり、生きる力を培う